中学校国語　その三

[四] 次の古文を読んで、(一)～(七)の問いに答えなさい。

また、この男、(1)親近江なる人に、いとしのびてすみけり。さるあひだに、この女の親、気色をや見(a)けむ、くぜち、まもりいさかひて、日もすこし暮るれば、門鎖して、うかがひければ、女は思ひさはり、男あふよしもなくて、からうして、築地を越(b)えて、この男入りにけり。つねに、ものいひたつたへさする人に、たまさかにあひにけり。さて、(2)それして、「築地を越えてなむまゐり来つる」といはせけるを、親、気色見て、(c)いみじく騒ぎののしりければ、(3)「さらに対面すべくもあらず。はや、帰りね」とぞ、いひいだしたりければ、「ゆく先はともかくもあれ、つゆにてもあはれと思はるるものならば、今宵帰りね」と、(4)せちにいひいだしたりける、帰るとて、男、

みるめなみたちやかへらむ近江路は名のみ海なる浦とうらみて

とて、帰りぬ。また、女、返し、

関山のあらしの風のさむければ君にあふみは浪のみぞ立つ

さりけれど、(5)この男、いらへをだにせずなりにけり。なにの身の高きにもあらず、親、かく憎げにいふ、めざまし。女も親につつみければ、さてやみぬ。

（『平中物語』より）

注　『くぜち』…『文句を言い』ほどの意。　『みるめ』…「海松（みる）」という藻のこと。

(一) この文章の出典は平安時代前半に成立したとされる歌物語であるが、同時期の歌物語の他の作品名を一つ書け。

(二) 線部分a「けむ」、b「越え」、c「いみじく」について、品詞名と活用形を書け。

(三) 線部分(1)、(3)を口語訳せよ。

(四) 線部分(2)「それ」とは何を指すか、文章中の語句で答えよ。

(五) 線部分(4)「せちにいひいだしたりける」とは誰の動作か、文章中の語句で答えよ。

(六) 線部分(5)「この男、いらへをだにせずなりにけり」という表現が、言外に含んでいることを二十五字以内で説明せよ。

(七) 男の詠んだ歌に対して、女は歌でどのように答えているか、男の歌の大意を述べた上で女の返歌を七十字以内で解釈せよ。

[五] 次の漢文を読んで、(一)～(六)の問いに答えなさい。（設問の都合上、訓点を省略した箇所がある。）

前漢王陵沛人。高祖起、陵亦聚(a)黨数千人。(1)及高祖擊項羽、(2)廼以兵屬漢。(3)羽取陵母置軍中。陵使至。則東向坐陵母、以招陵。陵母私(b)送使者、泣曰、爲妾語陵。善事(c)漢王。漢王長者。(4)毋(d)以老妾故持一心。妾以死送使者。遂(5)伏劍而死。

（『蒙求』「陵母伏劍」より）

注　「廼」…「乃」と同意。

(一) 線部分a「聚」、b「私」、c「事」、d「毋」について、読みを現代仮名遣いで書け。

(二) 線部分(1)は「高祖項羽を撃つに及び」と書き下す。これを参考にして訓点をつけよ。

(三) 線部分(2)を主語を補いつつ口語訳せよ。

(四) 線部分(3)「羽取陵母置軍中。」を書き下し文にせよ。

(五) 線部分(4)「以招陵」とあるが、このようにした意図を説明せよ。

(六) 線部分(5)「遂伏劍而死」した理由は何か、五十字以内で説明せよ。